

# JSQC ニュース

No.334

発行 一般社団法人 日本品質管理学会  
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507  
 ホームページ:www.jsqc.org/

## CONTENTS

- 1-トピックス 中部支部の今年度の活動状況
- 2-私の提言 科学的イノベーション経営の推進とそれに向けた産学官の情報共有推進
- 2-ルポルタージュ 第370回事業所見学会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第119回中部講演会ルポ/第375回関西事業所見学会ルポ
- 4-3・4月の入会者紹介/選挙告示/行事案内/論文募集

## 中部支部の今年度の活動状況

理事 國澤 英雄 / 幹事長 三浦 昭一

昨今、グローバル化が進む中でもものづくりを取り巻く環境は厳しい競争に晒されており、その中で勝ち残るには、日本企業の強さである品質や信頼性にさらに磨きをかけるとともに、社会のニーズや環境を素早く読み取り、お客様目線での多様な価値観に対応した商品やサービスを市場に出し続けることが必要である。

そのため、今年度、中部支部では「グローバル競争を見据えた産学連携によるQの確保の発信」を基本的な取り組みとして、さらにもものづくりやサービスにおけるお客様が求める本当の品質とは何か、また、それを提供するためには何が必要かを産業界と学界が連携を取りながら以下に紹介する各行事を通じて広く発信している。

### ■研究会活動

研究会活動を支部活動の中心と位置付けて、次世代を見据えた若手研究者の活性化と研究内容の充実を図っている。

#### (1) 東海地区若手研究会

年6回、中部地区の企業と名古屋工業大学、南山大学を中心に、それぞれ課題となるテーマを出し合い、Qの確保のための問題提起と解決方法を議論し、実践につなげている。

#### (2) 北陸地区若手研究会

金沢工業大学が中心となり、北陸地

区のQの確保の普及を目指して、毎年3月に学生、8月に企業の品質管理担当者の活動成果発表会を開催している。

#### (3) 産学連携現地現物研究会

年4回、中部地区の企業と早稲田大学、関西大学、名古屋工業大学が、開発設計技術者に実務に活用できるロバスト設計のための考え方と方法論を提供しており、現在、この活動成果をまとめている。

#### (4) 中部医療の質管理研究会

岐阜県の病院経営者とそのスタッフおよび中部学院大学が、2か月に1回の講演会と年1回のシンポジウムを通じて、TQMの考えに基づいた病院の経営と管理について、その課題や今後の方向性を議論している。

### ■研究発表会

毎年8月に、名古屋工業大学にて企業と大学が、会員、会員外の多岐にわたるニーズに応えた幅広い研究・開発テーマで、かつグローバルなものづくりの現場で使える事例を発表している。

### ■シンポジウム

今年度は、7月に顧客満足のための新たな商品やサービスを提供し続けることができる組織、人材、風土をどの様に作っていくかについて、「人が輝く組織の実現のために」と「ワクワク楽しい職場作り」と題した2講演と、講演者と会場参加者を交えた意見交換会を通じて伝えた。

### ■講演会

今年度は、5月にグローバルなものづくりの現場でお客様の求める本当の品質とは何かについて、新しい気づきを得、発想の転換につながることを狙いとして、低コストでかつ高品質と高信頼性を実現した最先端ロケット開発および、顧客が製品・サービスを選択するときの感情経験の提供の必要性についての2講演を行った。

### ■事業所見学会

年2回、見学参加者の品質管理の自社展開の参考となる、質の高い品質管理活動をしている中部地区の企業を選定して開催している。今年度は、中日本高速道路(株)と(株)豊田自動織機の2事業所の見学を行った。

### ■幹事研修会

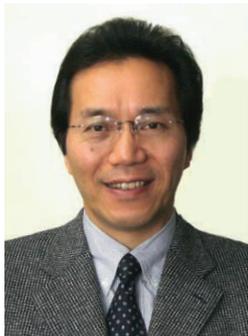
前述の諸活動を推進するため、担当幹事を産・学から選出し、毎月、幹事会を開催して企画・運営しているが、さらに幹事間の意思疎通を図り、行事の企画力・運営力の向上につなげるために今年は2回、研修会を実施した。

以上が、中部支部の活動概要である。今後とも、中部地区の強みである産業界と学界の連携を密にしながら、ものづくりやサービスの現場で、実践に役立つ品質の考え方、管理手法を会員および社会に発信できればと思っている。

## ● 私の提言 ●

科学的イノベーション経営の推進と  
それに向けた産学官の情報共有推進

大阪市立大学大学院経営学研究科教授 太田 雅晴



イノベーションマネジメントを経営科学の視点から研究することを、この10年間続けてきた。その中間成果として『イノベーションマネジメント』を2011年に日科技連出版社から刊行させて頂いた。それに関わり国内外で講演をさせて頂く機会も多くなった。

多くの方から多様なコメントを頂いた。海外からは極めて正当な研究との評価を頂く。国内は産学両方の方々から多様なご意見を頂いたが、それは本の内容への是非というよりも、イノベーションに向けての我が

国企業や社会全体の課題である。多くの方がイノベーション経営に向けて様々なご意見をお持ちで、拙稿によってその表出化が促されたのであれば嬉しいかぎりである。

イノベーションプロセスとは、顧客ニーズの把握、アイデアの創起、アイデアの評価・選択、製品化、製造の実行、そして製品の普及を牽引して付加価値を獲得する販売・マーケティングまでの一連の包括的プロセスを指す。それを的確かつ迅速にグローバル展開することによってイノベーションは成功する。皆様からのご意見の一例を挙げさせて頂くと、歴史ある我が国大企業の経営者の多くがどこかの部署のチャンピオンであった人で、そのような人に包括的プロセスのコントロールは難しいの

ではないとか、アイデアの選択・評価に際して、既存の組織風土が障壁となつて的確にできないとか、ここ数年グローバル化への対応を否が応でも迫られているが対処法がよくわからないとか、もはや一企業でイノベーションを成功させることは不可能であり、ジョイントベンチャーの設立やM&Aが鍵であるが我が国にはそのノウハウの蓄積は産学両方で非常に少ない、などである。

総じて言えることは、イノベーション経営に向けた科学的方法論の再構築とそれに関わる各種ノウハウの蓄積が、我が国において未成熟なことである。言い換えれば、我が国は今までのモノづくりの品質経営においては世界一のノウハウの蓄積があるが、それを有効に生かす経営ノウハウの蓄積が不十分なのである。私の提言は、イノベーション経営に向けたノウハウの蓄積を行い科学的マネジメント手法として共有する体制の構築である。欧米の優良企業、いや新興国の優良企業でさえ、その蓄積を淡々と行っているのであるから。

第370回  
事業所見学会  
レポート海上自衛隊横須賀基地  
における業務改善活動

平成26年5月14日(水)、第370回事業所見学会が海上自衛隊横須賀基地で20名の参加をもって開催された。おりしも、安全保障に関するニュースが報道される中で、定員を超える申し込みがあったとのこと。関心の高さを示すエピソードといえる。

今回の見学会では横須賀基地内にある「横須賀造脩補給所」と、「横須賀弾薬整備補給所」の2か所を訪問させて頂いた。横須賀造脩補給所の主な任務は、海上自衛隊が運用する艦艇を整備し機能を維持することで、そのための施設・技術レベルの維持についての説明があった。説明の後、横須賀基地内に係留されている艦艇の近くまで移動し、各種艦艇を近くから見学する機会も提供していただいた。潜水艦のハッチの構造は、専門家が見ると艦の性能が分かってしまうので、敢えてカバーで覆

ってある、といった蘊蓄も披露された。

次に、「横須賀弾薬整備補給所」を訪問した。この施設では機雷を含む各種弾薬の維持管理を担っており、品質確認のための試験設備も運用されているとのこと。我々が通常見ることのない砲弾の模型を使い、詳細な説明を受けた。また新設されたばかりの弾薬庫も、実際に現場で見学する機会があった。弾薬庫を設計する際のインプットは容易に想像できるが、実際の弾薬庫を目の当たりにすると、「弾薬」の意味合いを十分に感じる事ができた次第である。

そもそも、自衛隊が運用している艦艇や弾薬類に要求される品質レベルは、民生品とは桁が違うほどの差があると推察される。その性格上、詳細が公開される機会もないであろう。しかし、今回の丁寧に説明いただいた、艦艇や弾薬類の保証は、品質保証の原理原則に則っており、PDCAを回すという基本は同じ、という印象だった。

今回の有意義な見学会を受け入れて下さった、神奈川県地方協力本部、及び関係者には感謝申し上げます。

松田 啓寿 (松田技術士事務所)

## 第119回中部 講演会 ルポ

### グローバル競争を見据えた、 新しい「質」へのアプローチ

中部支部主催の標記講演会は、2014年5月19日(月)ウインクあいちにて開催された。技術・商品・サービスにおけるこれからの「質」を考える機会として、異なる分野で活躍されるお二人の先生が講演された。いずれも、多くの聴講者から高い評価が得られた。

#### ■講演1『イプシロンロケット開発における品質・信頼性の確保と新たな取り組み』



宇宙航空研究開発機構

清水 文男氏

イプシロンロケットは、宇宙利用の拡大を目指し、従来のシステム技術を更に発展させるために開発された。搭載された小型衛星への振動緩和、目的軌道

への正確な投入等、実験やシミュレーションによる検証をはじめ、品質・信頼性の向上への様々な取り組みが紹介された。目標に向かって宇宙を突き進む打上げ成功のシーンは聴講者に大きな希望と感動を与えた。

#### ■講演2『感情経験を提供する製品・サービスと経営』

東京工業大学 准教授 梅室 博行氏

製品やサービスを提供する際、顧客の使いやすさを設計する「ユーザビリティ」を超えた、「感情経験」を提供できる「感情品質」の重要性が説明された。人に感情的な反応を引き起こす力「アフェクティブさ」は、数値的な合理性に加えて、人の評価や判断に多くを頼る重要な要素であり、これを意識した組織づくりや人材育成がこれからの「感情経験」の時代には必要である。具体例による説明に聴講者は共感していた。



船見 晃啓 (株)竹中工務店

## 第375回関西 事業所見学会 ルポ

### お客様の要求品質に応える つばきの「モノづくり力」

去る平成26年6月6日(金)に、第375回関西事業所見学会が(株)椿本チエイン京田辺工場(京都府京田辺市)にて、標記テーマの下、21名の参加者で開催された。

椿本チエインは1917年(大正6年)に自転車用チェーンメーカーとして創業するも、早々に機械用チェーン製造に専念し、後にその技術から派生した精機、自動車用部品、マテハンを加えた主たる4つの事業を柱に現在に至っている。今回の見学先である京田辺工場は、1940年(昭和15年)以来、生産の要であった大阪市鶴見区の工場を全面移転、京阪奈丘陵の自然環境に恵まれたロケーションに、世界最高レベルのチェーンを生産する世界最大級の工場として2001年(平成13年)から操業している。

工場に入った瞬間、終わりが見えない巨大な建屋から大量生産をイメージさせられたが、プロセス改革として「要るものを要るときに要るだけ作る」変種変量生産にシフトし、月2万件にのぼる注文に緻密に対応する生産管理がなされていると思うと感慨深い。装置の熱気が伝わる作業員目線のコースもあったが、機械メーカーとは思えないきれいな現場であり、品質管理への強い取り組みが感じられた。

また、同じ過ちを繰り返さないために過去の失敗事例をまとめたポケット冊子を作業員全員に配布するなど、「お客様に喜ばれるモノづくり」を人から実践する姿勢は非常に参考になり、すぐにでも真似したいと思えた。

工場見学後の質疑応答でも、参加者から積極的な質問が多数寄せられ、期待以上の充実した見学会となった。

最後になりましたが、椿本チエイン京田辺工場の皆さまには、ご多忙の中、品質管理視点の丁寧なご対応に、この場を借りて厚く感謝の意を表したいと思います。

結城 隆之 (ローム(株))

## 2014年3月の 入会者紹介

2014年3月17日の理事会において、下記の通り正会員5名、準会員1名、職域会員3名の入会が承認されました。

.....  
**(正会員5名)** ○佐々木 市郎 (アルプス電気) ○上野 正子 (福岡徳洲会病院) ○大野木 雅千 (ヤンマー) ○沖田 武嗣 (日本ヒューレット・パカード) ○足羽 晋也 (クボタ)

.....  
**(準会員1名)** ○藤田 一樹 (青山学院大学)

.....  
**(職域会員3名)** ○安井 誠志・兼松茂樹 (豊田合成) ○蓮田 徹 (オリエンタルモーター)

## 2014年4月の 入会者紹介

2014年4月17日の資格審査において、下記の通り正会員9名、準会員8名の入会が承認されました。

.....  
**(正会員9名)** ○川崎 昌 (コスパクリエーション) ○根元 誠一 (日立製作所ひたちなか総合病院) ○朝倉涼次 (日立製作所) ○土屋 英雄 (オムロン) ○武田 幸雄 (三静工業) ○多田 謙徳 (パナソニックデバイスエンジニアリング) ○赤井 良行 (藤精機) ○曾根 孝典 (三菱電機エンジニアリング) ○小川 芳和 (リコーエレメックス)

.....  
**(準会員8名)** ○安藤 彰悟・大野正博・丹羽 正樹 (名古屋工業大学) ○渡辺 慎・本間 岳 (中央大学)

○吉田 真人・島村 文也 (東京理科大学) ○小林 壮大 (電気通信大学)

.....  
**正会員：2224名**  
**準会員：65名**  
**職域会員：21名**  
**賛助会員：158社207口**  
**公共会員：20口**

### 役員・代議員選挙告示

日本品質管理学会第44～45年度  
(2014年11月29日総会～2015年総会)  
の代議員・役員選挙を次の日程で行います。

投票用紙発送：7月25日(金)～29日(火)

投票締切日：8月31日(日)

当日消印有効

開票日：9月17日(水)

## 行事案内

### ●第105回研究発表会 (中部)

日時：2014年8月27日(水)  
研究発表会 13:00～17:20  
懇親会 17:30～19:30  
会場：名古屋工業大学  
参加費：会員4,320円(締切後4,860円)  
非会員6,480円(締切後7,020円)  
準会員2,160円 一般学生3,240円  
※当日払いは別金額となります。  
[懇親会]  
会員・非会員 3,000円  
準会員・一般学生 2,000円  
申込締切：2014年8月20日(水)  
申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。  
詳細：[http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h260827\\_2](http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h260827_2)

### ●第90回クオリティトーク (本部)

テーマ：ビッグデータ革命を品質から考える  
ゲスト：関口恭毅氏  
(関口情報経営研究所、JSQC選書No.20著者)

### 「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

日時：2014年9月2日(水)18:00～20:30  
会場：日本科学技術連盟  
東高円寺ビル5階研修室  
定員：30名  
参加費：会員3,500円 非会員4,500円  
準会員・一般学生2,500円  
(含軽食・当日払い)  
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。  
詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h260902>

### ●第106回研究発表会 (関西)

日時：2014年9月12日(金)  
会場：大阪大学中之島センター  
9:30～17:00 (予定)  
参加費：会員3,000円 非会員4,000円  
準会員1,500円 一般学生2,000円  
※当日払い  
申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。  
詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h260912>

### ●第121回講演会 (本部)

テーマ：これからの品質とTQM  
日時：2014年9月19日(金)13:00～16:20  
会場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部1号館3階講堂  
講演者：狩野紀昭氏 (東京理科大学)  
参加費：会員4,320円(締切後4,860円)  
非会員8,640円(締切後9,720円)  
準会員2,160円 一般学生3,240円  
※当日払いは別金額となります。  
申込締切：9月12日(金)  
申込方法：ホームページからお申し込みできます。

詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h260919>

### ●第44回年次大会・東京都市大学(本部)発表募集中!

日時：2014年11月29日(土)  
(1)申込期限  
発表申込締切：9月22日(月)  
予稿原稿締切：10月31日(金)必着  
参加申込締切：11月19日(水)  
(2)研究発表・事例発表の申込方法  
7月送付の発表申込要領をご覧ください。  
(3)参加申込  
ホームページからお申し込みできます。  
詳細：<http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h261128>

### 行事申込先

JSQCホームページ：[www.jsqc.org/](http://www.jsqc.org/)  
本部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1  
日本科学技術連盟東高円寺ビル内  
TEL 03-5378-1506  
FAX 03-5378-1507  
E-mail：apply@jsqc.org  
事務局携帯：090-9128-7979  
中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1  
RT白川ビル7階  
日本規格協会 名古屋支部内  
TEL 052-221-8318  
FAX 052-203-4806  
E-mail：nagoya51@jsa.or.jp  
関西支部：530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25  
日本科学技術連盟 大阪事務所内  
TEL 06-6341-4627  
FAX 06-6341-4615  
E-mail：kansai@jsqc.org